

## 2014年冬の結果報告

## TOKYO-Bay Shorebirds Survey

東京湾シギチドリ一斉調査

2014年2月の冬期調査は、20名の方に調査に協力していただき、大雪の影響を受けながらも無事調査を終えることができました。ありがとうございました。  
次回は、2014年5月に春調査を予定しています！

## ●調査結果のまとめ●

## ●調査日・調査場所

2014年2月16日（日）  
コアタイム 11:30～12:30  
東京湾内湾 15地点  
調査参加者 20名

## ●確認されたシギチドリ類

- ・コアタイムの調査で10種2301羽、エクストラタイム含めた全体では、11種2373羽となりました。
- ・複数回カウントしたサイトは種のMAX値を採用。

## ●確認されたシギ・チドリ LIST

科名	種名	学名
チドリ科	ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>
	ハジロコチドリ	<i>Charadrius hiaticula</i>
	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>
ミヤコドリ科	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>
セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>
シギ科	ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>
	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>
	ミユビシギ	<i>Calidris alba</i>
	トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>
	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>
	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>

●確認種数とサイト

表1 調査地のシギチドリ類の個体数

	コアタイム	エクストラ	エクストラ	コアタイム	コアタイム	コアタイム	コアタイム	コアタイム	コアタイム	コアタイム	コアタイム	コアタイム	コアタイム	エクストラ	コアタイム	コアタイム	エクストラ	コアタイム	コアタイム	全部
	11:30-12:30	11:29-13:23	9:00-10:06 12:45-13:40	11:36	12:21	12:02	11:00~12:00	11:00-12:20	11:33-12:41	11:03-12:10	11:00-12:00	11:30-12:30	11:30-12:30		11:30-12:30	11:30-12:30	12:30-15:20	11:30-12:30		
	多摩川河口	多摩川河口	六郷干潟	森ヶ崎の鼻	大井ふ頭中央浜公園	ふるさとの浜辺公園	東京港野鳥公園(潮入りの池・前浜干潟)	葛西臨海公園・海浜公園(鳥類園、東なぎさ、西なぎさ)	行徳鳥獣保護区	江戸川放水路	塩浜海岸	三番瀬	谷津干潟	谷津干潟	幕張の浜	盤洲	盤洲	富津岬		
ダイゼン												63		1			15	3	66	82
シロチドリ	19	16						20		14		23	2		4	1	8	4	87	94
ミュビシギ												151					8	26	177	185
セイタカシギ			5										6						6	11
イソシギ		1					1	1	1	2									5	6
ミヤコドリ															215				215	215
ダイシャクシギ								2											2	2
ハマシギ	25	14						205				1510					1		1740	1741
トウネン												2							2	2
タシギ			3																0	3
ハジロコチドリ										1									1	1
個体数	44	31	8	0	0	0	1	228	1	17	0	1749	8	1	219	1	32	33	2301	2373
種数	2	3	2	0	0	0	1	4	1	3	0	5	2	1	2	1	4	3	10	11

なお、中央防波堤・外側埋立地は雪のため調査できませんでした。

## ●シギ・チドリの種類構成

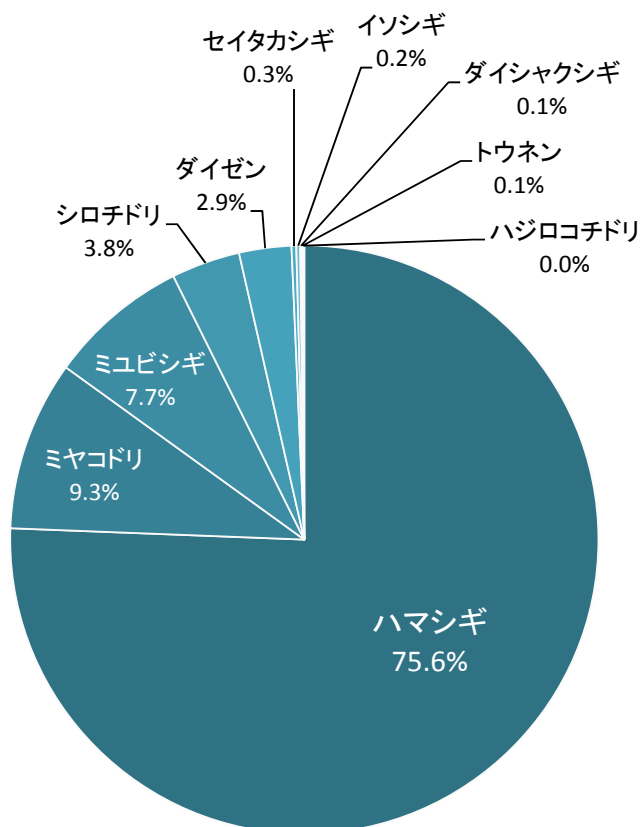


図1  
東京湾のシギチドリ  
類の種類構成  
(コアタイムのみ：  
2014/2/16:冬期)

総数：2301羽のうち、ハマシギが1740羽、全体の3/4を占める。

### ●確認された種類の傾向

- ハマシギが最も多かった（1740個体）。ミヤコドリ、ミュビシギ、シロチドリが次いで多い（昨年も同順位）。
- 確認地点では、シロチドリが8ヶ所と最多で、東京湾に広く観察された。イソシギ4ヶ所、ハマシギ3ヶ所とそれに続く。ハマシギは個体数が多いものの偏在。

### ●個体数の多かったサイト

- 三番瀬1749個体、葛西臨海公園・海浜公園228個体、幕張の浜219個体、多摩川河口44個体。ハマシギの群れが滞在しているため、三番瀬が最も多い結果となった。幕張の浜では、ミヤコドリが多数滞在していて3位となった。三番瀬や葛西方面の他、幕張の浜も採食地として利用している。個体数を抑える上で、千葉市側のカバーも必要。

### ●種類が多かったサイト

- 三番瀬：5種、葛西臨海・海浜公園、盤洲（時間外も含む）：4種。（昨年は三番瀬6種が最も多かった。）

●シギチドリの確認分布

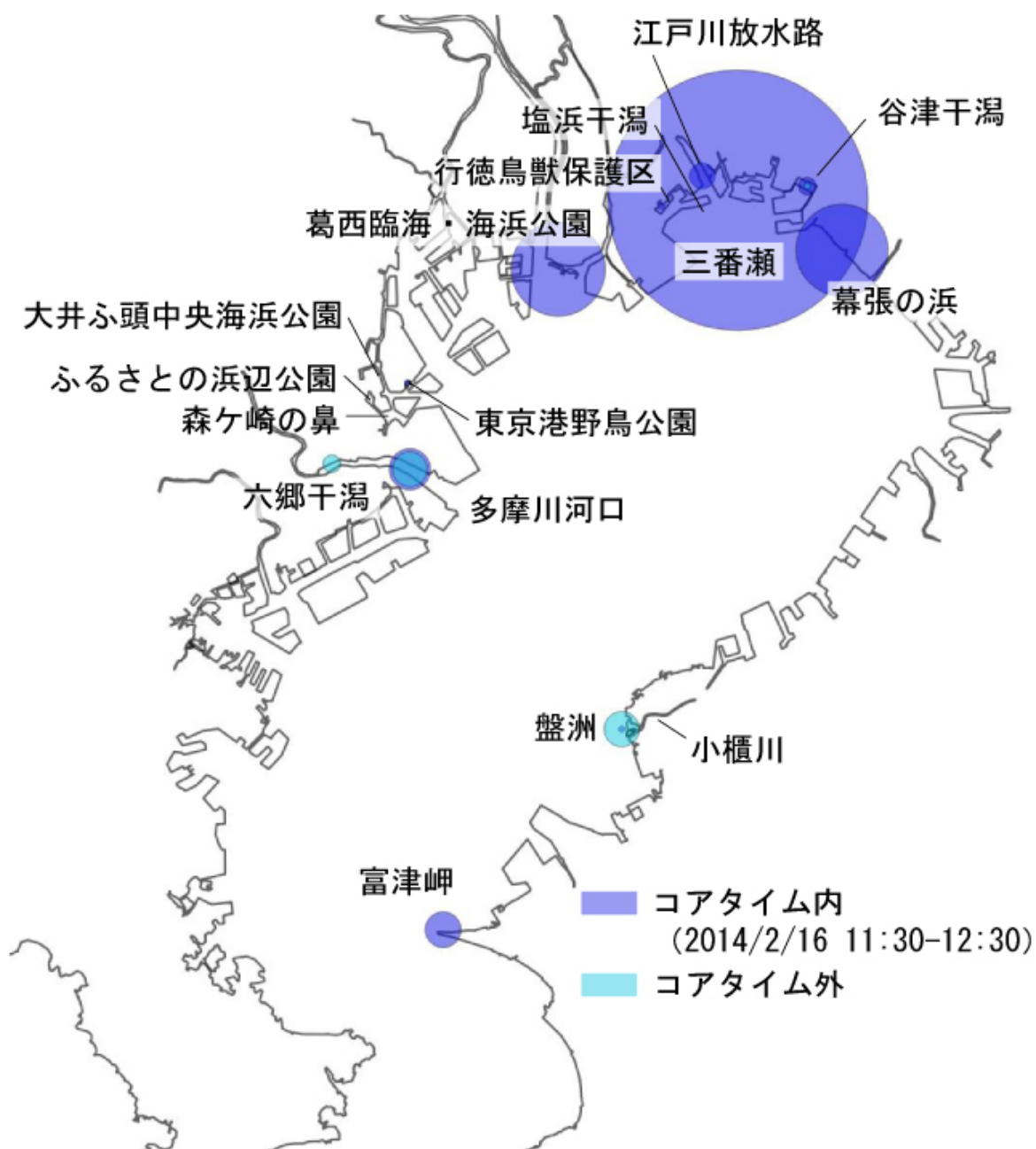


図2

調査地のシギチドリ類の個体数分布(総数)

円の大きさは、確認された個体数の大きさを示す。三番瀬での観察数が最も多く、1749個体。

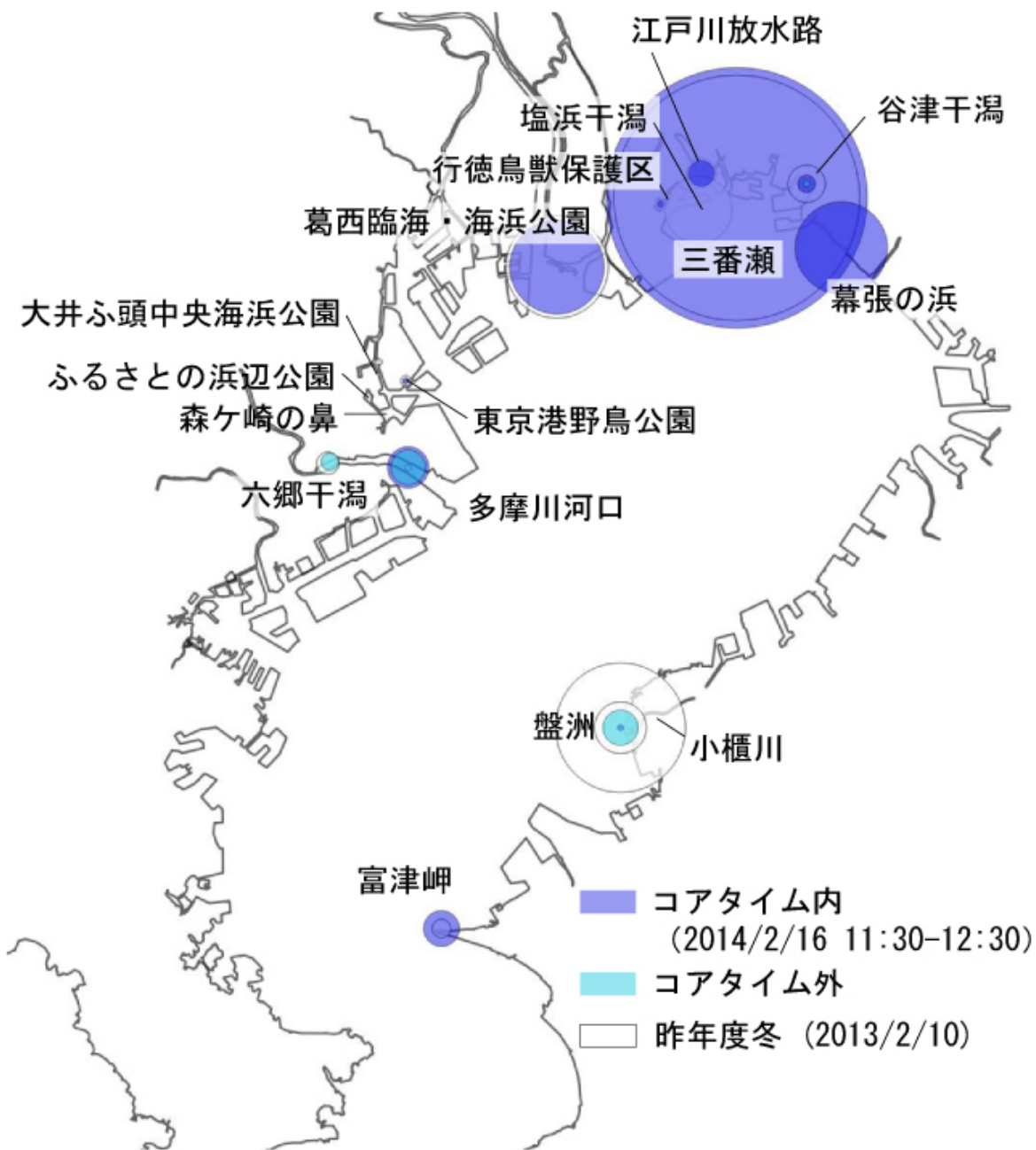
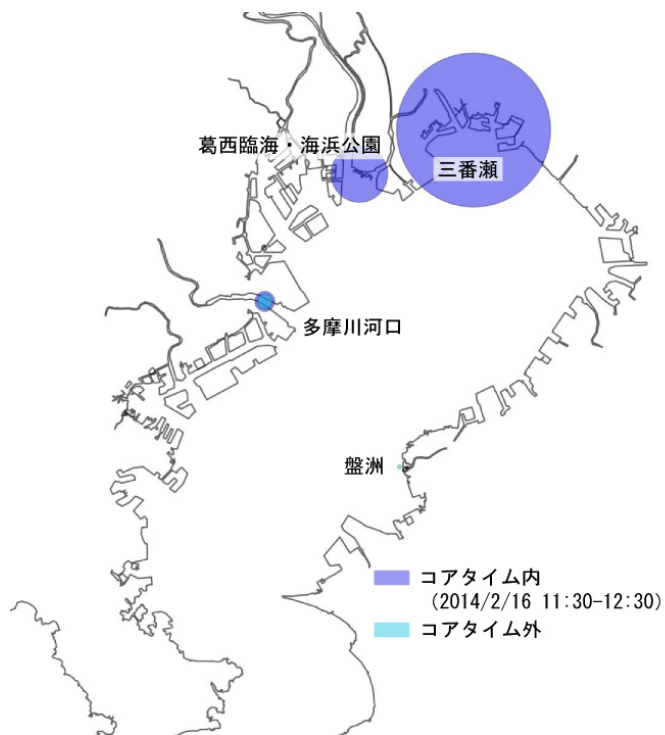


図3

2013年冬と2014年冬のシギチドリ類の個体数分布(総数) : 白円が2013年冬の個体数

三番瀬、幕張の浜、江戸川放水路などで昨年よく多く観察された。一方、葛西臨海公園・海浜公園、谷津干潟、盤洲などでは、昨年の個体数のほうが大きかった。森ヶ崎の鼻、大井ふ頭中央海浜公園、ふるさとの浜辺公園、塩浜海岸では、シギ・チドリ類が確認されなかった。

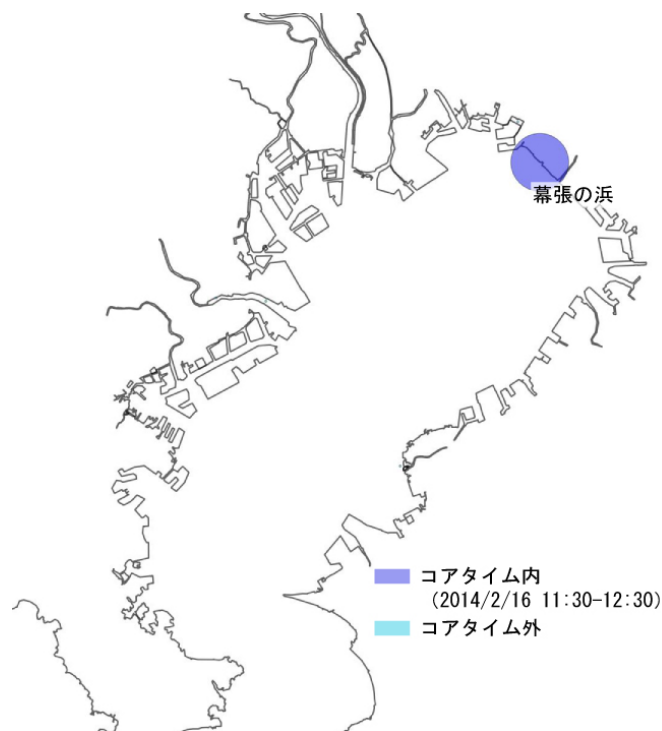
●上位6種の分布



## ハマシギ

図4  
調査地のハマシギの  
個体数分布

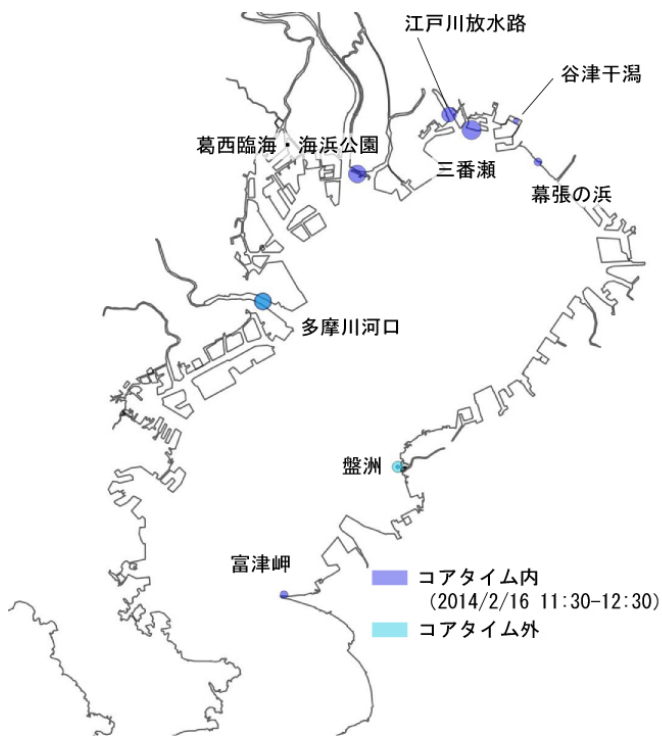
湾奥部の三番瀬、葛西臨海・海浜公園、および多摩川河口で確認された。三番瀬が最大で、1510個体。



## ミヤコドリ

図5  
調査地のミヤコドリの  
個体数分布

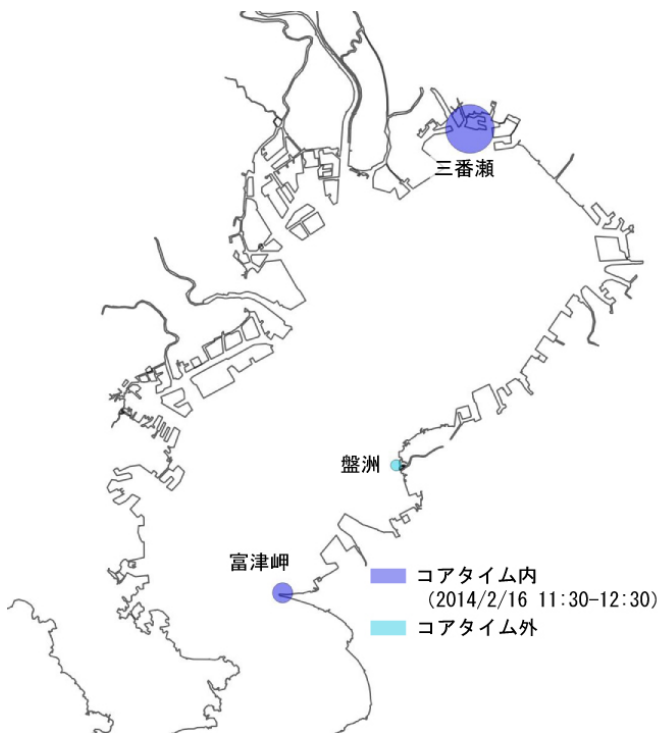
昨年、塩浜海岸で確認されたミヤコドリの群れが、幕張の浜で確認されている。幕張の浜のみで確認され、215個体。



## シロチドリ

図6  
調査地のシロチドリの  
個体数分布

東京湾内で広くされている。  
三番瀬が最大で、23個体。



## ミュビシギ

図7  
調査地のミュビシギの  
個体数分布

最奥の三番瀬と湾内  
南の盤洲、富津岬で確  
認されている。  
三番瀬が最大で、151  
個体。



## モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 一斉調査(1月中旬ごろ)

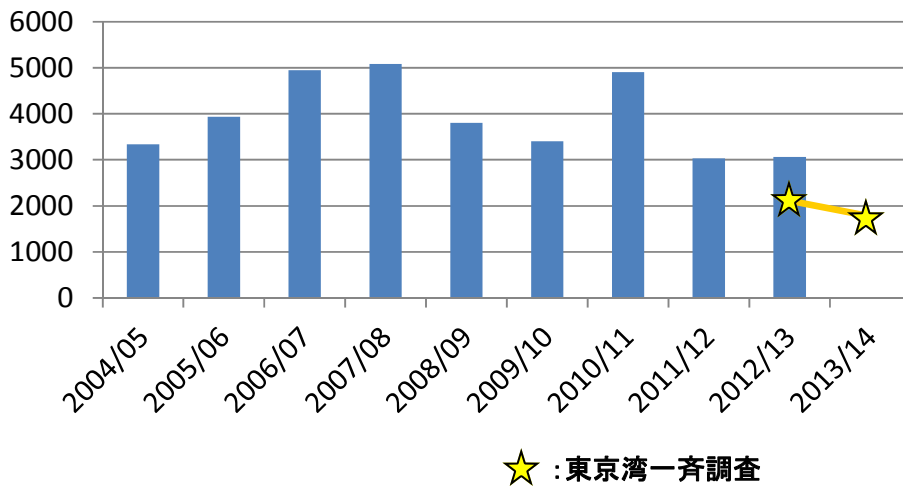


図8

モニタリングサイト1000調査(環境省事業)における東京湾内のサイトの冬期一斉調査の推移。調査は1月中旬に固定されている。モニタリングサイト1000速報から作成。

モニ1000の調査では、近年は、約3000個体。今回の結果は、約半数ぐらいと少ない。調査が2月であることや、重複カウントがあることが総数が異なる要因と考えられる。

### ●感想

例年がない降雪のためヒヤヒヤしましたが、無事、多くの点がカバーできましたこと、ありがとうございました。

渡りの時期は、同時期のカウントだとしても、調査日の天候や潮回りなどによって、シギ・チドリ類の滞在時間に影響を与えて、個体数が大きく変動する可能性があります。冬期は個体数が安定している期間が長いため、定量的な調査に適していると考えられます。そのため、アジアウォーターバードセンサス等は、集中して集まり、個体数が安定する冬期に調査を行っており、アジア地域の種の全体数をカウントするには理にかなった調査時期と考えられます。

しかしながら、国内の過去の調査は渡りの時期(春期、秋期)に焦点を当てた調査が多いので、意外と昔の比較できるデータが見つからず、長期の傾向がはっきりしませんでした。この辺り資料をご存じの方がいればご教授くださるとうれしいです。

優占種のハマシギは、東京湾に限らず日本を代表する越冬種ですが、湾内で群れが利用できる場所は限られています。三番瀬-谷津干潟-葛西海浜公園の湾奥エリア、多摩川河口エリア、盤州干潟エリアで分けられているようですが、湾奥エリア以外はあまり大きな群れとはいえません。越冬期にどのくらいのエリア間の移動があるか興味深いところです。

また、ミヤコドリが千葉市の人工海浜(幕張の浜)で確認されました。越冬期の前後半や潮汐で利用する場所も変わっていくようです。今回、新たに設けた調査地ですが、調査しなかったらミヤコドリを過小評価してしまったことになりかねず、事前の調査も必要だと感じました。

もっと人の目を増やす必要があるかもしれません。

### ●反省点

総まとめに時間がかかってしまいました。

文責：守屋年史